

議長

皆さんにお話ししたいと思います。  
休憩なしで、次いきたいと思いますが、よろしいでしょうか。  
〔「はい」の声あり〕  
はい、それではそのようにさせていただきます。

々

これより、石川議員の一般質問を行います。7番石川議員。  
(午前11時31分)

7番  
石川議員

7番石川でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。先ほど来ありますように、今年の夏は殊のほか暑くという言葉では言い表せないほどの災害級の熱波に見舞われました。来年度以降の夏も、この状態が続くと考えると、本当に地球規模で温暖化問題をもっともっと真剣に考えていかなくてはいけない、待ったなしの時期に来ているというふうに感じました。そのような中であって、小学生から高校生までの児童生徒さんは、文化系・体育系を問わず、非常に頑張っておられるというふうに感じております。その象徴的な存在の一つが、島根中央高校のカヌー部であろうというふうに思います。8月6日から九州、大分で開催されました、全国高等学校総合体育大会いわゆるインターハイにおいても、大活躍をみせられました。男子カヤックフォア200メートルと500メートルの2種目で優勝の快挙。男子カヤックペア200メートルと500メートルで準優勝。そして女子カヤックフォア200メートルで準優勝と圧倒的な力を見せ水面に輝きました。また、3年生に続く若い力も着実に育ってきております。カヌー競技で最も力と技術を必要とするカナディアンでは、2年生の女子選手が500メートル5位、200メートルでは8位に入賞され、島根中央高校の名をまた川本町の名を全国にとどろかせてくれました。堀田監督をはじめ、関係者の皆様に敬意を表したいと思います。先週の月曜日、私は島根中央高校の高校3年生の自分計画書の発表会に行きまして傍聴してまいりました。5人の生徒さんが発表されたわけですが、勉強の知識だけではなく、生活面もしっかり指導できる高校教員になって川本に帰ってくるとか、川本を拠点にアートディレクターとして、地域社会に貢献していきたいといったような発表が続きました。私が漠然と思っていた高校生とは違い、そこにはより深い知識を蓄えた未来に向かって真っすぐ進んでいく姿がありました。私は、このような若い力をしっかりと応援してあげたいというふうに、改めて感じました。

それでは少し長くなりましたが、1項目めの質問に移ります。

質問の要旨、1、「女子硬式野球クラブについて問う」。女子硬式野球クラブをつくり上げていくことは、若い女性の定住に苦慮している多くの自治体に一石を投じる事案になるものと考えます。今後、2050年までに744の自治体で、20代から30代の女性が半減し、最終的には自治体が消滅する可能性があるとも言われております。そうしたことを踏まえ、若い女性が

7番  
石川議員 行き交う町、若い女性が行き交う町を女子硬式野球クラブを通して実現していけたらというふうに考えます。そこで、本町に創設する女子硬式野球クラブに、競技の面から期待することをまず伺います。そして、このチームに、まちづくり、まちづくりという観点から、どのような役割を担ってほしいと考えているのかも伺います。以上です。

議 長 それでは、石川議員の質問「女子硬式野球クラブについて問う」に対する答弁を求めます。番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長 石川議員ご質問の「女子硬式野球クラブについて問う」にお答えします。本事業につきましては、議会からご提案、ご意見をちょうだいした、全日本女子野球連盟の女子野球タウン認定によるタウンプロモーションの強化、地域おこし協力隊制度を活用した新たな人流の創出、さらには若年層のライフスタイルへの価値観の多様化などを構想の骨格としており、昨年9月の定例会、10月に開催された活性化対策特別委員会において、地域創生の契機とするチャレンジングな取り組みとして提案し、今年度より女子野球でつながるプロジェクトとして始動しているところです。今年度に入り4月に、大田市出身で高校時代には春の選抜高校野球大会に出場し、卒業後はプロ野球に11年間在籍され、その後、独立リーグなどの指導者時代には、プロ野球選手を輩出するなど、指導力に定評のある森山一人氏に監督に就任いただきました。6月にはチーム名を公募したところ、約1か月間で全国から422の応募があり、審査の結果「島根フィルティーズ」に決定し、先のええなあまつりかわもとのステージで発表したところです。選手の招致については、森山監督が中心となり、全国の高校や大学への訪問、各大会への視察やPRブースの設置などにより、チームの認知度向上と選手へのPRを多方面で進めているところです。今後、チームロゴやユニフォームの検討などを進め、チームイメージを具体化することで、選手やスポンサー企業の確保につなげていきたいと考えています。また、この秋を目途に、現在進めている全日本女子野球連盟からの女子野球タウンの認定を呼び込んでまいります。

それでは、ご質問の1項目め「女子野球クラブに、競技面から期待すること」についてです。チームが主に出場予定する大会は、毎年8月に開催される全日本女子野球連盟主催の全日本女子硬式クラブ野球選手権、また5月から12月で開催される中四国女子野球連盟主催のルビーリーグなどが主なものとなります。全日本女子硬式クラブ野球選手権は、全国のクラブチームが出場し、ジャイアンツやタイガース、ライオンズといったNPBの女子野球チームも参加する注目度のある大会であり、川本や島根の名前を全国にPRする機会として戦ってくれることを期待いたします。ルビーリーグは、中四国にある高校生、大学生、クラブチームが前年までの成績により3部に分かれ、リーグ戦方式により競うもので、島根中央高校女子硬式野球部も参加しているリーグです。町民の皆様にも直接応援いただける機会ともなる、川本

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

町民球場でも開催されるこのリーグには3部からの参戦となりますが、段階を踏んで力をつけながら、1部リーグへの昇格を期待いたします。なお、女子野球の競技人口は年々増加しており、中学校、高校、大学の女子野球チームやクラブチームも増えており、多くの才能ある選手たちが育っております。前日の選手権やリーグ戦などのほか、野球教室などのイベントの開催、他地域との交流、SNSによる情報発信などによって、女子野球の魅力が伝わることで、より注目度が増していくことや、応援していただける方々や団体、県内外の学校などとの連携を創出するなどし、地域に根差したスポーツ活動に発展していくことを大いに期待しています。

次に、ご質問の2項目め「このチームに、まちづくりという観点から、どのような役割を担ってほしいと考えているのか」についてです。

まずは、冒頭お話ししました、女子野球でつながるプロジェクトの起点として、本町の人口構成上少ない若年層を滞在人口として受け入れる新たな人の流れづくり。次に、町内外の団体、事業者の参画や連携の可能性。スポンサーや、企業版ふるさと納税の募集。各種補助金の活用などによる経済循環の促進。そして、本町の楽しさや魅力を、野球や交流イベント、SNSなどを通じてPRする新たな視点の情報発信、これらの役割を担うことを期待し、地域創生の契機となる取り組みにつなげたいと考えております。

議 長

7番石川議員。

7番  
石川議員

それではまず、副町長にお伺いします。先ほど、まちづくりの観点からの答弁もいただきましたが、副町長は硬式野球クラブの女子選手が、またチームがどのような良い効果を川本町に与えてくれると考えておられるのか、そこをまずお伺いしたいというふうに思います。

議 長

番外藤田副町長。

番外  
藤田副町長

ご質問のチーム、また選手が、本町に及ぼす良い影響と良い効果ということでお答えをします。先ほど、伊藤課長の答弁と重なる部分もございますけれども、このプロジェクトによりまして、新しい人の流れをつくって、滞在人口拡大をして、この野球によって本町をPRすることと、また同時にですね、この地域の担い手になっていただいて、そのことによって、地域が活性化していくというような効果を期待しておるところでございます。具体的に申しますとですね、この人手不足の折、様々な地域活動に参加していただいて、その活動を担っていただくということですか、町内の事業所に勤務していただいて、その事業活動を維持していただいたり拡大していくというようなことですか、場合によってはですね、新しい事業が創出されるようなこともあるのじゃないかなというふうに思います。町内にはなかった例えば新しいアイデアだとか技術、そういったものをお持ちの方がもしおられるんであ

番外  
藤田副町長

ればですね、そういったものを活かした活躍ということも期待したいというふうに思っています。その他にはですね、チームの運営によって出てきますその経済活動、そういうものによる波及効果ですとか、あとは選手個人の消費活動に伴います波及効果、またあと規模は限られますけども、人口増に伴う財政上の効果もあるのではないかなというふうに思っております。そうした期待する効果がですね、形になるためには、まずはしっかり野球をしていただく環境を整備することが大事でございますし、選手個人に対してはですね、魅力のある活躍の場を、どう提示できるかどうかということがポイントだと思いますので、一般社団法人のかわもと暮らしを中心にしてですね、そうした仕組みづくりとともに、町内各所からのご提案、連携そういったものを期待しておるところでございます。選手には野球をしながら、いろんな活動に参加していただいて、将来的にこの川本の町に愛着を持っていただいて、定住していただけるような希望を抱いていただけるように取り組んでいきたいと考えております。以上です。

議 長

7番石川議員。

7番  
石川議員

ありがとうございました。私も副町長と大体同じような考えを持っております。一つ一つ丁寧にですね、課題を解決して前に進んでいけたらというふうに、担当の方と一緒にですね、頑張ってもらいたいというふうに思っております。昨年度末ですね、執行部は、ちょっと繰り返しになりますが女子硬式野球クラブを川本町につくり上げていくことを発表されました。町民もですね、敏感に反応いたしましたですね、概して好意的に受け止めたというような感想を持っております。これは5年前にですね、山陰地方初の女子硬式、高校の女子硬式野球部ですね、島根中央高校に創設してですね、本町には明るい話題を提供していると、このことがですね大きく影響しているんじゃないかというふうに感じております。冒頭答弁にはありましたが、監督も元邇摩高校の甲子園出場経験者で、元プロ野球選手の森山一人氏、50歳に決定をいたしておりますし、チーム名も夏まつりに「島根フィルティーズ」ということで発表されました。そして選手の受入れ先もですね、一般社団法人かわもと暮らしということが決定をいたしております。ここまではですね、一応順調に外堀が埋まってきているわけですが、詳細については大部分がこれからということですので、町民の皆さんがですね知りたい事柄、またいろいろと心配されていることもあろうかと思っておりますので、その辺、私の考えも入れながらですね、順次聞いていきたいというふうに思います。まずですね、運営費についてはお伺いをしますけども、8月26日のですね、議会運営委員会でも出ましたが、女子硬式野球クラブの運営、また初期投資等に関わる予算については、一般財源は使わないということで、議会と合意してスタートしたというはずでございますが、移住定住推進プロジェクト補助金等でですね、まだありますけども少し曖昧になってきておりますが、今一

7番

石川議員  
議 長

度その辺の考え方を、課長にお伺いをしておきます。

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

運営費の考え方でございます。運営費のほうは、地域おこし協力隊の募集経費、また活動費に充てられる特別交付税、また、国・県の補助金、本プロジェクトに対するふるさと納税、スポンサーからの寄附などを基本的に想定しております。先ほどありました今回の補正予算に計上させていただいたものなどは、島根県の補助を活用させていただきますが、その補助率が2分の1でございます、事業主負担の2分の1を捻出するものですが、今回はまだスポンサーとの支援も受けておりませんので、ふるさと納税を活用させていただきたいとそういった提案をさせていただいたところでございます。運営費の大きな方向性としましては、先ほど述べました特別交付税等の財源を基本的な考え方として運営をしていく予定としております。今回のように、補助金の自己財源部分であったり過疎債の実質町負担部分や一般財源につきましても、町への波及効果、さらには投資の必要なタイミング、特にですね人材の循環でありますとか、人の育成、人への投資、また町内への経済還元の様々な効果を考慮した上でですね、一般財源等の支出に対して特に注視しながら、必要なタイミングでまた議会のほうに相談をさせていただきたいと考えております。

議 長

7番石川議員。

7番

石川議員

今基本的な財源については、議会のほうに早め早めに相談をかけるということでございますので、その辺はきちっとですね、やはりお互いの信頼関係もでございますので、言っていただいて協議をするというスタイルでいきたいというふうに思います。それと運営費の財源につきましても、これ地域おこし協力隊の国から支給される、今500万ぐらいになっているんですかね、これを幾らかを充てるということでもよろしいかと思っておりますけども、年間の運営費総額でどのぐらい想定されているのかということをお聞きをしていきたいというふうに思います。活動が比較的似ている高校女子硬式野球クラブと、これとちょっと野球部と比較してみたいと思うんですが、高校の関係者の話によりますとですね、平成4年度の経費がですね約850万、そのうち高校からの公的といいますかその財源が150万前後。したがってですね、高校の場合は保護者が負担するということになるかと思っております、この負担額が700万ぐらいというふうになっておるといようなことを聞いております。それで高校の年間のスケジュールですけれども、これは皆さんご存知だと思いますけども、春にですね埼玉県でまず新人戦が行われます。これ全国規模ですね。これは決勝戦が東京ドームで行われるやつです。それから夏にはですね、いわゆる甲子園に直結しております大会が、夏の大会

7番  
石川議員

が京都の丹波市、それと兵庫の淡路市、淡路市ですね、淡路島。今2会場になっております。決勝は丹波のほうで行われ、決勝といいますか、準決勝ぐらいからは丹波のほうへ移動して行われるという大会でございます。それから、岐阜県で8月にユース大会というのがあります。これは新人戦になるんですけども、この3つがですね、大きな全国大会の大会ということになるのかと思います。そしてまた年間を通じてはルビーリーグというところに所属をしております。これは中四国を中心にやっておる大会ですけども、それと練習試合、これご存知のように島根県には島根・鳥取にはありませんので、兵庫に行ったり岡山に行ったりですね、四国に行ったりと、かなり広範囲に歩いているということを聞いております。これが高校の主な活動ですけども、今度できる女子硬式野球クラブもですね、大体同じような感じになるんじゃないかと思うんですけども、課長のほうで把握されてるね、そういう、どのリーグへの大会へ出るとかですね、どういうリーグに所属するかそういうのがありましたらちょっと聞かしていただきたいと思います。それで財源がですね、どのぐらいで賄えるというふうに踏んでおられるのか、今後のこともございますので、そういうことをちょっとお聞きをしたいというふうに思います。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

失礼します。まず、大会出場する予定の大会でございます。議員のほう、かなり情報収集をいただいております、実は女子の場合は高校と重なる部分も多くございます。先ほど冒頭にお話ししましたように、主なものはですね、8月にあります全日本女子硬式、これは千葉の方でございます。これに、年によってちょっと違うんですが、ベスト4あたりに入りますと、さらに10月のところで、全日本選手権、これが愛媛の方で、もちろん勝ち上がってのことですけども、これはですね高校・大学・クラブチームの上位チームが一堂に会するという大会になります。力がつけばそういったところにも出ていけることになると思います。それからもう一つが、通年通してシーズン中に行われます中四国ルビーリーグ、これも中央高校の例を出していただきましたけども、同じように中国・四国を転戦するというものでございます。それから、春一番では子規記念杯、これは愛媛、これも島根中央高校も出ておりますが、こういった大会に出ていく。それから11月に、これも島根中央高校も出ておりますが、西日本女子硬式野球、これは広島の方で開催されるということでございます。クラブチームの大会と高校の大会、高校選手権とは違いますがそれ以外はほぼ同じような大会に出場することが可能であるということでございます。これらの経費、運営費を大体どれぐらい見込んでいるかということでございますが、全ての大会に出る、また1回戦で勝つのですかね、3回戦まで残るのでは滞在期間がかなり違って大きく違いますが、上位進出をした経費を見込んで、かつですね選手の人数によっても変わって

番外伊藤まちづくり推進課長 きますけども20人が揃った段階、何年か後の20人が揃った段階で、全ての大会に島根中央高校が出ているような大会に全て出たと想定すると、約900万程度を見込んでおり、先ほど石川議員がおっしゃられました850万、島根中央高校の話がございましたが、やはりほぼ同じような金額を想定しているところでございます。

議長 7番石川議員。

7番石川議員 スポンサー企業の話も、また後から出しますけども、運営費でいきつくことがないように、余裕を持って計画を立てていただきたいというふうに思います。次に移らせていただきます。選手募集についてでございます。まだ未稼働のチームのためですね、できる限り早い段階での具体化が必要と考えます。平成（正：令和）7年度の4月からチームが活動していくというスケジュール感からいきますと、この9月から年末にかけて特にしっかりとした募集活動が必要不可欠と考えますが、その対応についてまずお伺いをします。しかしながらですね、私もですね、この募集活動が全く順調にスムーズに進んでいくとは、正直思っておりません。いろいろと他の新設クラブチームの様子を聞く機会がありましたので、聞いてみたわけですが、本当に苦労されていると、いちからスタートでございますので、そうした中で初年度はですね、チーム編成ができる場所は稀であるというような話をお聞きをしております。そこで非常に心配しとるわけですけども、今現在どのような段階にあるのか、その辺をですね、分かる範囲内でお伺いしたいというふうに思います。

議長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長 選手募集の状況でございます。選手募集の方は、森山監督を中心に指導者や関係者などのネットワークをですね介しまして、全国の女子硬式野球部がある高校や大学への訪問、またチームづくりチームが出来ますというようなお手紙、手紙を送ったり、またですね各大会、先ほど出てきたような大会へ視察しPRブースを設置するなど、チームの認知度の向上と選手へのPRを多方面で進めているというところであります。具体的に言うと今年に関しては12人程度をですね目指して、かつですね監督の意向というか戦略的なところもあって、ポジションもですね、かなりこうそれぞれに分けながらターゲットを絞った、ターゲットというか選手の特性を絞っての募集活動を現在進めているところでございます。議員の想定のとおり9月以降はですね、興味を持っていただいた選手や、保護者との個人面談や面接などを行う段階となっており、9月に入りまして既に保護者を交えた面談を行った方も数組出ている、そういった状況でございます。ただ、議員からご指摘のあった初年度の選手募集の難しさですが、実際に動き出してみてもですね、運営主体とな

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

るかわもと暮らしからの報告、情報共有、私自身もですね非常にそこは感じているところでございますが、近年立ち上げられたチームの状況を聞きましても、議員の情報のとおりですね、1年目は合同チームで出場しているチームも多く、2年から3年かけて単独でのチームというようなチームも選手募集を行っているチームもあるということでございます。実績ですとか実態がまだない、やっと名前のほうが決まりましたけども、またスポンサーが見えないといった状況の中で、高校3年生、大学4年生はですね、5月あたりからは、既にもう進路を具体的に決めている状況もあります。実際にですね、こういった大会などPRをすると、高校2年生とか大学3年生あたりからですね、かわもと暮らしのほうへ問い合わせがきていますと、そういった状況を見ても、高校の生徒募集もそうなんですけど、春に行くともうほぼ2年生、次の年みたいなところがございます。そういった状況もあります。とはいえどもですねこういった状況を踏まえ、4月に向けてどうやって選手募集していくかというところで、感触もあるものもありますし先ほどお話ししたように面談を既にしているような数組出ているような状況もありますが、今後のところでは、チームのロゴでありますとか、協力いただける企業を具体化するなどして、各大会に出向き積極的にPR、また個別相談、特に今後はですね、きめ細かい対応、これ川本のだからこそこできる対応だと思えますし、前段の一般質問の中でもですね、1人を大切に作る難しさ、招致してくる難しさの話も住宅問題の中でもございましたが、しっかりと細かく対応しながら、選手募集に9月以降、しっかりと注力していきたいと考えております。

議 長

7番石川議員。

7番  
石川議員

初年度はですね、先輩もいないということで、今課長言われるようなことで非常に難しいということは認識しております。しかしですね、前に進めていかなきゃいけませんので、役場のほうも最大限にですね一緒になってやっていただきたいというふうに思います。それじゃ次にですね、選手の仕事の件についてですね、再確認といいますか、お聞きをしておきます。地域おこし協力隊として過ごす3年間の仕事ですが、具体的に今決まっているものがあるのかなのか、これをお伺いしておきます。聞くところによりますとですね、スポーツイベントの企画運営でありますとかですね、町のふるさと納税のPRの仕事を考えているというようなことを聞こえてきますが、人数12、3人の人数で2つの仕事ということではですね、いかにも少ないというふうに考えます。グループ別に分けられるんだと思うんですけども、1つのグループに5人6人というのもちょっともったいないなというような気もしております。グループとして3人程度になるようにですね、やっぱり別の仕事もやっぱり考えてもらいたいというふうに思います。せつかくのこれ人材ですのでね、本当の意味での有効活用が必要になってくるんじゃないかというふうに考えます。まだ恐らく半日程度働くことになると思うんですが、

7番  
石川議員

仮に賃金が発生した場合にですね、これどこに帰属するのか、それもちょっとお聞かせを聞いておきたいと思います。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

まず通常の業務、野球以外のところでのご質問でございました。将来的に想定していますのは、まず議員のほう承知していただいております、スポーツイベントの企画運営、これは観光協会の事務局を担っております、かわもと暮らしに所属しますので、観光協会と連携しながらスポーツイベントで交流人口を呼んでくると。とはいえども初年からですね自分自身でということにはなかなかならないと思いますので、観光協会の事務局また観光協議会の会員、地域の皆様と一緒に、スポーツイベントの企画運営による交流人口の呼び込み、さらにはふるさと納税のPRと、これはもちろんふるさと納税のPRはもちろんですけども、川本町のですね魅力をSNSなどを活用しながらPRしていくことです。他のクラブチームでもこういった前例もございますので、参考にしながらこれは取り組みやすいものかなと思っております。そのほか想定しておりますのは、スポーツ教室の企画運営、そういった経験ですとか学生時代に学んだものを活かせる場としても、スポーツ教室の企画運営、それから交流・情報、交流でありますとか情報発信拠点サロンといったような、拠点の運営ができるとういことなどは思っております。あくまでこれ将来的なところ、そういったものを想定しております。ですが先ほどからお話もありますが、選手の人数、年度ごとに増えていくということになりますが、こういった人数でありますとか、個々の選手の経験・スキルを踏まえながらですね、段階的にですね先ほど言ったような4つの業務についてですね、具体化して一つずつ進めていきたいと考えているところでございます。それから次に、他の職場でですね働く場合の賃金の考え方でございますが、これにつきましては、このかわもと暮らしの所属の業務としてではなくですね、臨時的職員として一定の賃金をもらいながら働く形になることを想定しています。これは派遣業の関係からいっても、やはりかわもと暮らしの仕事としていくことにはなかなかありませんし、一定のアルバイト的な形で、まずは受け入れていただける企業さんにもいろんな契約形態があると思いますので、その辺は受け入れていただける企業さんにご相談をしながら決めていただくということ、決めさせていただくと考えております。ただですねその場合もですね、二通り考え方あると思いますが、本当にその人手不足という部分もあると思いますが、それ以上にやはり選手ですね将来でありますとかセカンドキャリア、また受け入れていただく事業所さんが、将来的に本当に雇用をしていただける、そういった職場を中心にですね、これもいきなり来てですね、まだ川本に慣れないうちに、いきなり民間の方でそういった臨時的職員というようなことにもならないかもしれません。川本の生活にまず慣れる、普通の通常の業務に慣れる。さらには、しっかりと野球に取り組み

番外伊藤まちづくり推進課長  
議 長

る、そんな生活がある程度出来た段階です、一定の賃金をもらいながら働いていく、そういった想定を今はしているところでございます。

7 番石川議員。

7 番石川議員

先ほども言いましたけど、せっかくのこれ人材でございますのでね、いろんな観点から考えて進んでいってほしいというふうに思います。

それでは次に移ります。先ほどの質問でも住宅の問題出ましたが、若い女性にとってですね特には住まい、これは非常にですね定住する場合にですね、重要素になるんじゃないかというふうに考えますが、今現在、十何人受け入れるということですけども、どういう住宅、住まいについてはどういう考え方を持っておりますか。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

住まいについてでございますが、議員ご指摘のとおり住まいは重要な要素選手を招致するに当たってもですね、今日は出ておりますが、女子野球との取り組みに関わらずですね、定住人口を増やしていくという住まいは、非常に重要な要素と考えております。この中でも、今回の取り組みに関しては、単身用の民間住宅、それから町営住宅、こういったものを現状ある中では想定しております。こちらについてもですね、ちょっと想定の話が多くなるスタートしておりませんし選手もまだ来ておりませんので想定の話が多くなりますけども、選手のニーズを把握しながら面談の中でも聞いております。

どういったとこ、値段と民間住宅とか、まだそういった想定はありませんが空き家とかいう話も聞いておりますので、そういった選手のニーズを把握しながら、こちらが斡旋すると、かわもと暮らしが紹介するというような形で準備をしていきたいと考えております。特に民間住宅についてはですね、このプロジェクトを機にですね、民間が参入していただくことも期待をして、町内外の企業さんにも、そういった情報を提供しながら女子野球選手用だけではなくてですね、不足している住宅が増えるような取り組みにつなげていきたいと、そのように考えております。

議 長

7 番石川議員。

7 番石川議員

はい、しっかりやって欲しいというふうに考えます。それでは次に移ります。練習場の確保でございますが、ご存じのように野球やっている団体というとスポ少、それから中学校、それから高校の男子・女子、4団体もあるわけですが、それに比べて野球をする施設、場所はそんなに無いということでございますが、女子硬式野球クラブがどこでどういうふうな練習、時間体も含めて、今考えておられるのか、聞いておきます。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

練習の場所です。これも当初、想定しておりますのが川本町民球場、これがメインになると思っております。サブ的に川西のグラウンドということになるかと思っておりますが、町民球場につきましては、時間帯が先ほど議員述べられた小学校から高校までの団体とは、ちょっと被らない午前中でありますとか、昼間の時間でありますかそういったところを想定をし、当面はですね川本町民球場を中心に活動していくということで考えております。町民球場については、2030年の国民スポーツ大会、軟式野球会場に決まっておりますが、先日、中央競技団体の視察がございまして、競技者の安全面、円滑な競技運営、身障者や女性が利用しやすい環境整備の3つの視点からの指摘もあったということがございますので、この改修にもあわせてですね、また実際にチームの活動が始まって、練習の状況・時間帯なんかも、ちょっとやりながら検討しながら、練習状況を見ていきたいと、そのように今は考えております。

議 長

7番石川議員。

7番石川議員

いつまでも間借り状態ではなくですね、抜本的な解決策になるようなこともですね、片一方でやっぱり考えていってほしいというふうに申し添えておきます。それでは次、移ります。特に若い女性ということを考えますとですね、生活上、川本で暮らす上でですね、心のケアが必要になってくるという場面が出てこようというふうに考えます。何かあった時にですね、相談したいとかですね、こちらから相談に乗ってあげたいというようなボランティアの別組織も考えるべきじゃないかというふうに私は思っております。そういう考えがあるのか。また高校の方では、まち親制度というのをやっておりますけれども、これと同じような考え方で何か援助してあげる、心に寄り添ってあげる、そういうことができる可能性があるのか、お聞きをしておきます。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

議員からご意見をいただきました。これもですね、本当これから選手が来て、どういった状況、メンタル面も含めてですねどういった状況・ニーズがあるかということだと思いますが、まず、まち親制度のお話をいただきました。これはですね、10年ほど前にですね島根中央高校の男子野球部が、高校全体のスタートとして県外生募集を始めた時に、石川議員をはじめ4名の方がですね、自らそういった役割を担っていただいたことをきっかけに、この形をモデルとしながらですね、県外生の生徒が増えてきた、増やしてきた段階、タイミングで高校の後援会が、まち親制度という形で視察に行きました隠岐島前高校などをモデルとしながら、スタートを切った制度でございま

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

す。最近では、この制度があるので中央高校の受験を決めたという生徒・保護者さんもおられ、たいへん議員の皆さんたくさん、まち親も担っていただいておりますが、島根中央高校のこれ魅力の一つにもなっている、本当安心感のある制度になっております。また制度が、この制度ですねお付き合いいただいて卒業後もですね、生徒とまち親の方、また卒業した生徒さんが川本町とつながる関係人口づくりにもつながっていると、私も認識をしております。この制度を今回のクラブの選手にもと、参考にしてはというご意見だと思いますが、冒頭述べましたように、選手は19歳以上の選手になりますので、その辺りしっかり選手のニーズを聞きたいなとまずは思っております。ただ、保護者さんと話をしますとですね、やっぱり運転も初めてで高校卒業してくる生徒なんかと面談をしますと、やっぱり不安な面も持ち合わせている保護者さんも多くあると、何となく私面談をしている、情報交換してる中で感じますので、選手がですね来た段階で、そういったことも考えていきたいと思っております。組織化につきましてはですね、よくその辺は、受けていただく方、ボランティアということになりますので、そういった町民の皆様、石川議員はじめ4名の方が始められた時のように、やってやろうという機運がですね高まった、その辺のタイミングも考えながらですね、またその時にですね、ご相談させていただきたいなと思っております。

議 長

7番石川議員。

7番  
石川議員

私はですね、今、課長慎重に言われましたけども、ボランティアを基本として、そういう別組織は絶対必要であるというふうに思っておりますので、いろんな観点からもう一度考えてほしいというふうに申し添えておきます。それではですね、次に移ります。地域との共生については、最後に伺っておきます。プロとして活動しているサッカーやですね、バスケのチームは、地域とのつながりを非常に大切にしています。この女子野球硬式クラブもそのような視点が必要であろうというふうに考えますが、何か思い描いているものがあれば、伺っておきたいというふうに思います。というのは、やはり川本に来てですね、例えばどっかの自治会と、三原連合自治会と関係を持つとかですね、そのいろんな郷土的なことも含めて、一緒に学んでいくとかですね、そういう関係性を持つとか、いろんなことが考えられると思うんですよ。やはりその地域とどういうふうに共生をしていくのか、こういう観点で、お考えがあれば聞いておきます。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

ご意見いただきました、地域との共生つながりということでございます。他のサッカーチームでありますとか例もいただきましたが、島根フィルティーズもですね、大切にしていかなければならない柱の一つであると考えてい

番外伊藤ま  
ちづくり推  
進課長

ます。川本町はもちろん、島根県、全国の同じような地方の皆様にもですね、ぜひ応援してもらえよう活動をしていくことが必要だと考えております。具体的な例も自治会との付き合いとかいただきました。まさにですね、まずそういった小さいところからですね、当然大会もありますので、こちらの方との兼ね合いもございますが、町内のイベントでありますとか、昨日も自治会野球などやっておりましたけども、そういった場面、スポーツ大会でありますとか、地域の運動会こういったところには積極に出ていく。また、ええなあまつり、産業祭あたりではですね、ほんと日程次第ではございますが、自ら出店をする、そういった場面などをつくっていければと思っております。将来的には、そういった参加だけではなくてですね、島根フィルハーモニー自体がですね町の賑わいの場を作れるような企画ができるようになればと思っております。またですね、そういったつながりにつきましてはですね、先ほど、幾つかご提案を既にいただきましたけども、自治会でありますとか、企業さん、事業所、団体、こういったところからのご提案も積極的に受けながらですね、つながりを広げていく、そんなプロジェクトにしていきたいと考えております。

議 長

7番石川議員。

7番  
石川議員

それでは最後の最後ですけども、町長にお伺いをしたいというふうに思います。聞いておきたいと思います。運営費の目途は立っているということでございますが、このクラブチームをですね、未来に向けて成長させていくためにはですね、スポンサー企業というものが、絶対に必要であるというふうに考えます。町長もご存知だと思いますけども、山陰地方をですね拠点として活動しているプロサッカーチーム、J3のガイナレ鳥取にはですね、山陰地方に本店を置く地方銀行がスポンサーとして、名を連ねております。また松江を拠点としているバスケットボールの島根スサノオマジックにもですね、ゲーム機事業大手のですね企業、また日本有数の電気販売会社の山陰事業所がですね、スポンサーとして応援をされております。これから先ですね、町長、副町長のですね、トップセールスに期待をするわけですけども、これからどのような動きをしていこうと、今現在考えておられるのか、お伺いをして、この質問を終わりたいと思います。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

このチームをですね、具体化さらには価値化していくという意味におきましては、議員ご指摘のとおりですね、スポンサーの確保というのは、極めて重要であります。実現に向けまして、まずはこのですね、7月にチーム名を決定・公表しました段階で、ふるさと納税制度にですね女子野球でつながるプロジェクト枠を設けております。そしてですね、企業のですね潜在的な社

番外  
野坂町長

会貢献意識、これを導き出すのにはですね、この税制面でそういう制度設計された企業版ふるさと納税制度というのはですね、やはりとかく理解が相反しがちなですね、いわゆる事業所とそれからですね民間のセクターですね、民間セクターとそれ公的部門ですねかわもと暮らし、そういうところのですね、この制度はですね、ベクトルが極めて一致するように設計をされておりました、しっかりこの本プロジェクトをですね、そのPRに活かしていきたいと考えております。その上で、この秋から年末にかけてはですね、いろんな事業所、本町にゆかりの事業所、あるいは県にですねご縁のあるそういう事業所、そして何よりもですねこのたびの動きでですね、関心を寄せつつある事業所、ここにですね一般社団法人かわもと暮らしと緊密に連携して、積極的にアプローチをしてまいりたいと考えております。そしてですね、私も改めて感じてますのはですね、これまでの行政活動の中ではですね、設定の無かったあるいは薄かった事業所、組織団体、それからですね大きな関心やですね共感が寄せられております。関連して申し上げときますと、ちょっとその活動を申し上げてみますと、先週土曜日ですね、9月7日の日にですね、マツダスタジアムで開かれました、川本町、町をPRするデー、我が町ですね魅力発信隊、これにかわもと暮らしが出展をいたしました。当日はですね江川漁協のですね、アユの塩焼き、そして音戯館も出てですね、しっかり地元産品をPRいただきましたし、選手募集の時にですねいたしましたPRビデオですね、これバックスクリーンですね、スクリーン上での上映もいただくなどPRしたところですが、その場にですね、カープ球団松田オーナーがですね、かわもと暮らしのブースに出かけていただきました。実は去年ですね、去年の盆明けが1回目ですね、そういう場でありましたけどもその時はですね、私もオーナーとは挨拶する程度でありましたけど、この度はですね、具体的にですね今の川本町の取り組みですね、これをしっかりお話しすることが出来まして、女子野球の支援に力を入れておられるカープ球団もですね、非常にですね関心を寄せておられました。こういったですね、新たに寄せられている関心や共感の声をですね、しっかり受け止めて、これらを活かしながらですねアプローチ活動を進めてまいりたいと、このように考えております。

議 長

7番石川議員。

7番  
石川議員

ありがとうございました。女子硬式野球クラブを核とした新たな人流の創出を推進することにより、地域活性並びに人口減少抑止を目指して、この野球クラブ、野球クラブを育てていきたいというふうに私自身も考えております。しかしながらですね、かわもと暮らしだけにですね、丸投げという姿勢では絶対に駄目です、これは。丸投げしてると私は言いませんけども、やはりですね、まちづくりが中心になって、かわもと暮らしもそんなに5人も10人も、人材がいるわけではありませんので、その名前だけで先行しないよ

7番  
石川議員 うに、かわもと暮らしというその名称だけが先行しないように、一緒になっ  
てですね、やることが非常に大切だというふうに思っておりますので、そこ  
はやはり執行部も肝に銘じて、私らも応援するところはしっかり応援しますの  
で、やっていただきたいということを申し添えてこの質問を終わりたいと思  
います。ありがとうございました。

議 長 以上で、「女子硬式野球クラブについて問う」の質問を終了します。

々 これをもちまして、石川議員の一般質問を終了します。

々 ここで暫時休憩いたします。午後は1時15分から再開します。  
(午後0時29分)

々 それから、会議中気づいたことなんですが、<sup>かわもとまち</sup>「川本町」の「まち」にこだ  
わってだと思ふんですが、<sup>ほんまち</sup>本町ということを言われますが、先ほど町長言  
いましたように、我が町だったら我が町でいいんですが、<sup>ほんまち</sup>本町ではなくて<sup>ほんちよう</sup>本町  
の方が私は自然だと思ふます。<sup>まち</sup>町を使いたいなら、単なる<sup>まち</sup>町にしてください。  
日本語的にちょっとおかしいと思ふます。以上。